

大学での 学びとは

GETTING
STARTED



高校までの勉強は、先生は教える人、生徒は教えてもらう人、というかたちになっていることが多かったのではないのでしょうか。しかし大学は、新たな「知」を生み出す場所です。そして、教員のみならず学生のみなさんも、その一員なのです。

新たな「知」を生み出すために、もっとも大切なもののひとつは、何かを「知りたい」という好奇心や「なぜ？」という疑問です。この好奇心や疑問は皆さんそれぞれに異なる独自のものですから、新しくユニークな「知」を見つけるための重要な出発点です。

しかし、ユニークさが「独りよがり」になってしまっはけません。新しいことを考えたと思ったのに、それがすでに広く知られていることだったら？あるいは、せっかく一所懸命考えたのに、まったく見当外れの結論になってしまったら？がっかりしてしまいますね。

では、どうしたら優れた「知」が生み出せるでしょう。まず大切なのは、「何がまだ知られていないのか、何がすでに知られているか」を学ぶことです。宇宙物理学者である池内了はこう書いています。「科学者は、何もかもわかっている人間なのではなく、現在、何がわかっていて、何がわかっていないかを最もわかっている人間なのです」（池内了、1996、『科学の考え方・学び方』岩波書店）。未解明のテーマを見つけることは、研究の第一歩となりますが、そのためにはこれまでに解明されていることを理解する必要があります。

ここでひとつ、たとえ話をします。西洋中世の学者の文章に、「巨人の肩の上に立つ（英語では、standing on the shoulders of giants）」という表現があります。遠くを見たいと思ったとき、がんばって背伸びをしても、飛び跳ねても、自分ひとりの力では限界があります。でも巨人の肩に乗ることができたら、自分の背丈ではとうてい見られないような景色が目飛び込んでくることでしょう。学術の新たな知見や視座は、先人たちの研究成果の積み重ねの上にこそ構築されるのです。ですから、まずは巨人の肩まで登る、すなわち先人が積み上げた研究成果（これを先行研究といいます）を勉強することが必要です。

「なんだ、結局勉強か」と思いましたか。でも、先行研究をただ鵜呑みにしたのでは、新たな研究テーマは見つかりません。先人の研究成果に敬意を払いながらも、「本当にそうなのだろうか」「まだ分かっていないことはないだろうか」という批判的思考 (critical thinking) を持つことが大切です。そして、批判的思考を生むのは、やはりみなさんの好奇心や疑問なのです。勉強は、自分が見たかった景色や、誰も見たことがない景色を見せてくれる。そう思うと、わくわくしてきませんか。

さて、大学での勉強の要となるのが授業です。ここでは、皆さんが授業でできるだけ多くのことを学べるように、授業に役立つ様々なスキル (技術) や、大学が用意しているシステムを紹介します。最初はすこし複雑に感じるかもしれませんが、活用できるようになると大きな助けになります。どんなものがあるか、見ていきましょう。

時間割をつくる

01 授業の形態

ところで大学ではどんな授業をしているのでしょうか？ 大学での授業には、①講義、②実験・実習、③ゼミ (演習・卒業研究) と大きく分けて3種類の形態があります。

講義

講義科目では、教員の講義を聞いてノートを取ることが授業参加の第一歩ですが、実は講義のスタイルは教員によって違いますし、板書のスタイルも十人十色。ノートの取り方が学びの基本技術です。多くの授業では総まとめは期末試験やレポートとなります。



ゼミ (演習・卒業研究)

ゼミ (演習・卒業研究) では、指導教員の助言をうけながら、長い時間をかけて、問題意識を深めじっくりと研究します。一般にはゼミの成果がゼミ論ですが、それが卒業研究、卒業論文 (卒論) となる学部もあります。ゼミとは大学での学びの到達点ともいえるでしょう。

実験・実習

実験・実習科目ではグループでのテーマに沿った実験と結果の分析、コンピュータや作品制作のワークショップ、社会調査のフィールドワークなどがあります。課題に挑戦して、講義だけでは知りえないことを探求します。



02 シラバス

それぞれの科目の内容を詳しく知るために、必ず学部がHPに掲載するWebシラバスに目を通してください。その科目の目的、学習の到達目標、授業計画、成績評価の方針などが説明されています。

シラバスを読みこなすコツを身につけましょう。それには学部が配布する「履修の手引き」にもしっかりと目を通してください。皆さんが調べている科目が、学部カリキュラムのなかでどのような役割を担っているかが「コース」や「科目群」というかたちでまとめられています。

シラバスは学期中にも十分に活用してください。受講する科目の授業計画を常に参照すると、予習・復習が効率的に行えます。

Webシラバス <https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>



ハンドブック筆者がこっそり教える! 「シラバス」活用術

シラバスを小さくコピーして授業ノートの表紙ページに貼っておくと、毎回の授業の進捗と授業計画全体との関係がいつも良くわかるので大いに役立ちました、という先輩もいます。

03 履修登録

自分にとって最良の履修計画は一人ひとり異なります。よく考えてどの科目を履修するかを決めてください。教職員や先輩にアドバイスをもらうのも、大いに参考になるでしょう。でも最後は自分で判断して決めてください。皆さんの履修計画は皆さん自身のものですから。

学部学科によっては、多くの必修科目が指定されているところもあれば、あらかじめ受講するクラスが指定されている科目もあります。履修の手引きとシラバスを良く読んで、学部の必修科目や選択必修科目、履修制限などをしっかりと理解しておきましょう。

履修する科目を決めたら必ず登録します。履修登録には手続きの期間がありますので、学部ガイダンスの内容や履修の手引きをよく理解して、手続き漏れのないように十分注意しましょう。Webの不具合も想定して時間に余裕をもって行うことも大切です。履修登録をすませたら登録結果を確認することもお忘れなく!



学習サポートの窓口「学習ステーション」

市ヶ谷キャンパスの「学習ステーション」では、4月に新入生のキャンパスライフをスタートするための様々な質問を受け付ける「新入生サポート」を行っています。活用しましょう。

また、学生スタッフが自分たちの強みや得意分野を活かして作成したプログラムを中心に、他の学生の「学び」をサポートしています。

場 所
市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎2階



ちょっと待って!

- ❗ 「必修科目じゃないから、この科目は履修しなくていいや」
- ❗ 「選択科目はどの科目でも好きな順番に履修していいよね」
- ❗ 「今学期いちばん簡単そうな科目はどれかな?」
- ❗ 「アルバイトやサークルの時間を確保したいので、授業はできるだけ同じ曜日に集中して取ればいいんだよ」

カリキュラム・ツリーや科目のナンバリングなどに注意して、皆さんの学部の履修モデルはどうなっているのか確認したうえで、登録しましょう。